

三重短期大学生生活科学科住居環境コース 出前事業

JIA 三重では三重県内の学校に対する教育支援活動を行っており、三重短期大学住居環境コース1年生の住宅課題で中間エスキスと最終講評会の2回、ゲスト講師として参加しました。三重短期大学での出前事業は4年目を迎えるということもあり、成熟した感がありましたが私は約10年ぶりの講師ということで、快く引き受けたもののブランクもあり、思いのほか緊張しました。

中間エスキス指導では、答えを与えるのではなく、考えて自ら答えを導き出してもらうような指導を心掛けました。順調な学生にはさらなる思考のヒントを与えるような投げかけを、手が止まってしまう学生には考えたことをとにかく書き出すクセ付けを特に意識しました。

最終講評では、周辺環境や要望を整理しながら性格の異なる3つの庭を楽しむ案や、ピロティ形式で住空間をすべて2階に持ち上げた案など、光るものを感じさせてくれる案がいくつかありましたが、私が担当した班は未完のものも多く、建築を学び始めて間もない1年生にはもう少し段階を踏んでいくような指導が適して

いたのかもしれないと反省させられました。優秀作品を決める全体講評では、ゲスト講師とおし意見の違いや評価の違いが聞く側にとっての醍醐味だったりするわけですが、今回は講師間の意見は割れず満場一致に近い形で優れている案が4つ選ばれ、JIA 三重の有志からささやかではありますが賞を渡させていただきました。

このコロナ禍において、密を避けるため教室を2つ使用し、消毒・検温等を徹底することで、対面でのエスキス・最終講評会が行われたことは大変意味深いことだと思います。3次元で質感まで表現してある模型を直接見ると、モニターを通して2次元でみるのとでは、やはり違うわけです。他の学生の作品をモニターというフィルターを通してではなく、直接触れられたこと、優れている学生の熱量をまじかに味わえたこと、建築設計という行為を共有できたことは、忘れ難い経験となり今後の糧となるはずです。

提出図面をそろえるのに精一杯の学生や、工業高校卒で完成度の高いプレゼンのできる学生さまざまでしたが、それぞれに刺激になったと思いますし、こちらも大



講評会の様子



プレゼンを聞くJIA会員

いに刺激を受けました。

私は出前事業に初参加でしたが、皆さんの刺激の一つになっていることを願います。



高瀬 元秀 (JIA 三重)
タカセモトヒデ建築設計

卒業設計のエスキス指導に参加して

私は三重短大の卒業設計のエスキスに、JIA 会員の4名の講師の方々と共に、学生会員として参加させて頂きました。通常の課題と異なり、自らテーマ、敷地、用途まで決め設計することが卒業設計の大きな特徴ですが、エスキスでは、非常に多様な計画が提案されていて興味深かったです。全体としては、1つの建物としてよりも、地域との関わりを意識した都市計画的な広い視点を持って卒業制作に取り組んでいる学生が多い印象を受けました。その中で、計画としての提案を、

どのように建物の機能、構造や意匠に落とし込んでいくことができるかが、作品の成果に大きくつながるのではないかと感じました。生徒の皆さんは説明用に図面や制作の概要、敷地調査結果をまとめたシート等を準備してくれていましたが、中でも、模型はエスキス時に大いに役立ちました。このことは、建築を学び、普段エスキスを見て頂く立場の私にとって、模型が断面や周囲との関係性をスタディすることに役立つだけでなく、自身の持つイメージを他者に伝えるのにどれほど有効

であるかに気づく契機となりました。

実際に建築家として活動されているプロの方々による指導は、私を含めた学生にとって新たな視点を得たり、モチベーションを高める機会になりました。私も今回勉強させて頂いたことを活かして、今後の制作に取り組んでいきたいです。



平西 明日香 (JIA 三重)
三重大学